



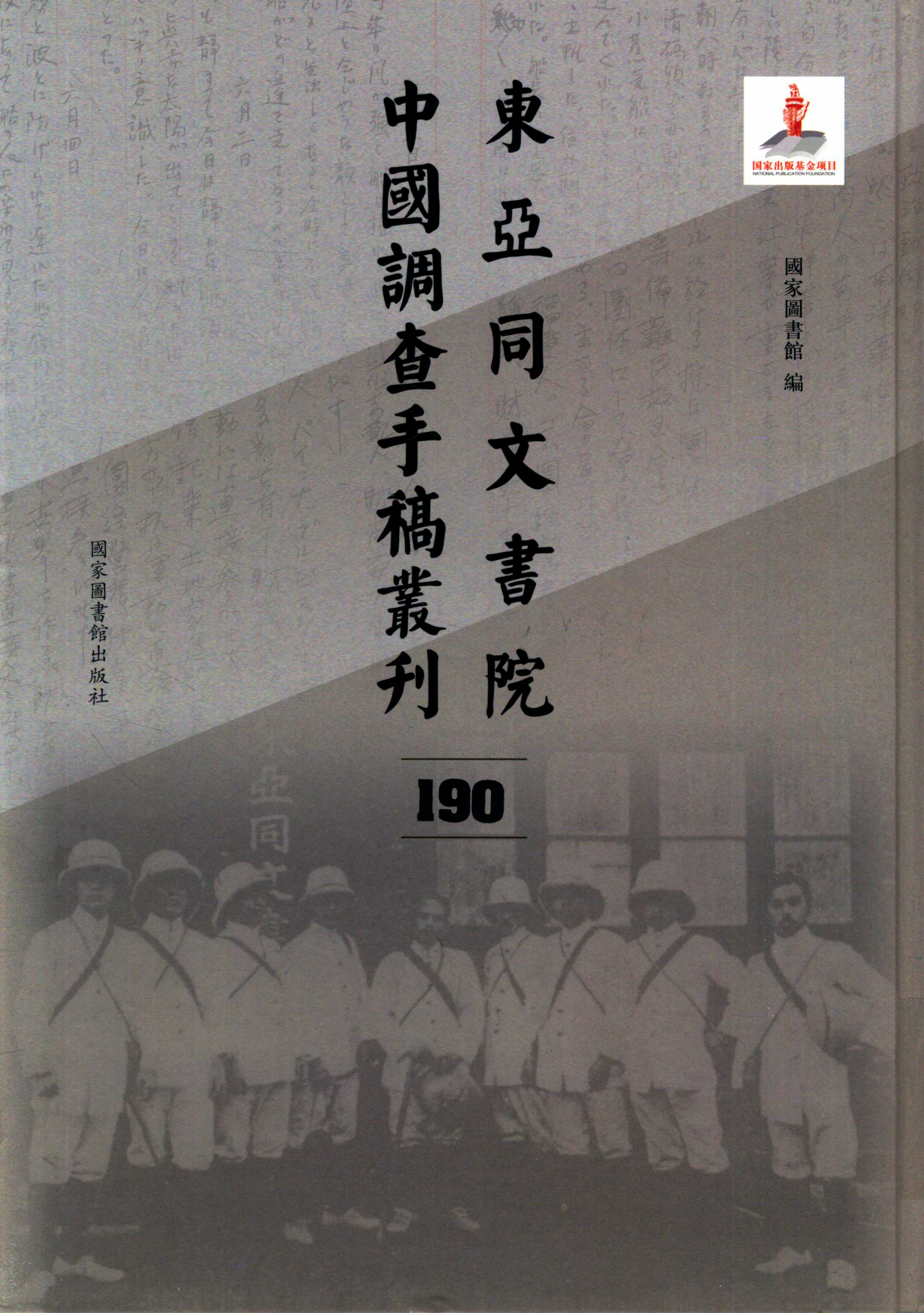
國家圖書館編

東亞同文書院

中國調查手稿叢刊

190

國家圖書館出版社





國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

190

國家圖書館出版社

第一九〇冊目錄

昭和十七年（一九四二）調查報告（第三十九期生）

燕郊鎮の概略

燕郊鎮概要 芹澤五郎 内倉三郎 小島和雄

大東亞戰爭の中國人並に在支外人に與へし影響

大東亞戰爭對中國人及在華外國人的影響 松尾七郎 石丸岩夫 鈴木吉之 久保徹之

都市の經濟機能の分析

城市經濟功能的分析 三浦良男 岡秀彦 渡邊卓郎

安慶の救濟事業

安慶的救濟事業 東輝夫

人民團體

人民團體

蜷木定輝

土田正治

.....

四八一

昭和十七年度

大旅行調査報告書

燕郊鎮の概畧

第十四班

芹澤 五郎

内倉 三郎

小島 和雄

昭和十七年度
報告書

第十四班
通州調查班

片澤五郎

内倉三郎

小島和雄

藥	鋪	六軒	(中	西藥鋪	日	本製	品	の	多	い	の	お	目立	)
馬	牲鋪	三軒												
鐵	鋪	三軒												
木	匠	二軒												
當	鋪	二軒												
燒	窩	一軒												
肉	店	二軒												
菜	館子	一軒												
理	髮店	一軒												
自	行車店	一軒												

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室

駐屯。	十畝ばかり、	廟田を	持つて	ある。	の	三個	で	あり。	公
に	西関の側、	久生廟	(祭日は六月六日、	現在	治安軍一	中隊が			
廟とは	東の	関帝廟	(祭日は五月十三日、	と	南の	天吉廟、	それ		
を	利用した	郷立燕郊小	學校	(在校生三〇名)	と	である。	三大		
校	(現在	在校生一一〇名)	と	東関を	出た	関帝廟の	境内		
と	である。	二個の	學校とは、	村の	北に	ある	通縣縣立小	學	
姓家である。	村として	重要な	建物は	二個の	學校と	三大廟			
以上	總計三十九軒が	主な	商店で	他は	全部農	業と	する	百	
	小間物店	一軒	(雜貨商主に	三つ	め化粧品	雜貨を	取扱う	た)	
	銀宝器店	一軒							

路上には小さい家も一個、基督教教會があり、周帝廟
 の側に合作社がある。その原場にて集市が行はれてある。
 医院は全々ないが、医療施設として薬舗が漢方薬を販売
 し、その掌櫃が匠者の代理としてある状態である。
 交通方面は大体良く開け便利である。通縣、三河に通る公
 路が北へ走り、近くに燕西公路がある。長途汽車が一日
 一回通縣、三河へ通ひ、車賃は通州迄一元四毛錢、三河へ
 は臨時的で相当料金は高い様である。又洋車は当村には
 全々なく、運搬用には主にカム輪の大車を用ひ、又騾子
 も相当利用してある。牛馬は多くないで用ひてゐない

い。	農家の副業も特色ある物はなく、小房子造り、疎菜	馬糞、猪糞が主なものである。又畑には全々共有地はな	多くなく良好とは言はれない。肥料は自家製の粉糞と	は全部旱地で灌漑状態は二伯の河川ありのみで、井戸も	な地主も精々二〇〇一三〇〇畝が最大である模様、耕地	は二一三畝の土地を有してある様で、大地主は無く、大	農家の状態は大抵自作農で、小作農は三〇〇戸に上り、彼等	る。	車は用ひられず、自転車かその役をつとめてある状態であ	様である。鉄輪の大車は通して走るとき、時のみ使用され、小
----	-------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------------------	----	----------------------------	------------------------------

の小賣位のりである。百姓間には合會は無いらしく、
 金融は合作社に仰ぐらしいが、此も力弱く一部にしか及
 ばぬ現状である。雜貨屋よりの借金も見られぬ様である。
 信仰、宗教の狀態は佛教が非常に多く、次に回教で、信
 者は三〇戸ばかりあり、基督教信者は僅かに三、五人の
 程度で問題にならぬのである。
 村の歴史としては、往昔は北京行きの宿屋場として栄えた
 らしく、その跡は行宮を偲はれる。又現在に至るまで平
 和な部落として保たれ、今事變の戦禍も全々蒙らず、人
 口も、商売の繁昌狀態も戦前と大差ない様である。

昔か、今迄此れと言ふ大人物も出た。現在大李卒業者は
二名で、平凡平和で、一農村村落である。
本地人、主反姓は張、と吳である。

六月二十四日新民会燕郊鎮分會に於て鎮長吳仲三先
生、此に新民会分會長李在庚より尋ね調査した。

8

瑞

成

齋

雜

貨

舖

瑞成齋		(一) 一般概況		本店は現店主高錫令の祖父の代民國十四年正月開店したもので、當時主人の老朋友なる馬なる人間に資本を出して、彼をその掌櫃として經營せしめたものである。	父の代に二家に分家し、郷里師姑莊の土地家屋は全て長男が相続し、本店はその分家が貰ったものである。現在は此の店主も郷里に約三百畝の土地を持ち自作してゐる。	店主は五人兄弟であるが、現在母親兼高耆齡及び姪子供とで生活してゐる。
-----	--	----------	--	---	--	------------------------------------